

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月12日

上場取引所 大福

上場会社名 アセット・インベスターズ株式会社
 コード番号 3121 URL <http://www.assetinvestors.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 森下 将典
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 宮毛 忠相
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

TEL 03-3502-4911

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	6,667	68.2	△9,399	—	△9,600	—	△9,187	—
20年3月期第3四半期	3,963	△46.5	12	△99.2	△262	—	917	△10.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△111.84	—
20年3月期第3四半期	11.17	9.80

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	11,320	1,559	11.5	15.80		
20年3月期	29,075	14,709	37.4	132.31		

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 1,298百万円 20年3月期 10,869百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	1.50	—	0.50	2.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,000	78.1	△9,200	—	△9,400	—	△7,700	—	△65.33

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社(社名)) 除外 2社(社名 エーアイ・バリュー・パートナーズ投資事業有限責任組合、株式会社エー・エル・ティー・ホールディングス)

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 82,291,567株 20年3月期 82,291,567株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 149,504株 20年3月期 140,303株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 82,146,355株 20年3月期第3四半期 82,157,872株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は本資料の発表日現在において、入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国経済は、個人消費や設備投資に弱い動きが見られ、企業収益が減少するなど、景気後退傾向にあります。先行きについても、アメリカ・欧州における金融危機の深刻化や景気の一層の下振れ、株式市況の長期低迷、円高の進行などから、景気低迷が長期化する懸念が高まっております。

当社グループの主要な事業領域である国際金融・資本市場、国内不動産市場をみると、アメリカ・欧州における金融危機の影響を受け、株式市況の低迷や不動産取引の停滞、並びにこれらを背景とした信用収縮がさらに深刻化しております。

このような経済状況のもと、当第3四半期の売上高は、マーチャント・バンキング事業において投資回収を積極的に進めたこと及びホスピタリティ&ウェルネス事業において公営施設の指定管理事業を開始したことなどから、6,667百万円（前年同期比68.2%増）となりました。

また、損益の状況につきましては、営業投資資産の売却損または評価損などから、当第3四半期の営業損失は9,399百万円（前年同期は営業利益12百万円）、経常損失は9,600百万円（前年同期は経常損失262百万円）となりました。

これに加えまして、債務免除益512百万円など特別利益合計で723百万円、固定資産売却損738百万円、減損損失1,035百万円など特別損失合計で1,812百万円となり、さらに繰延税金資産の取崩し等による法人税等調整額1,474百万円、少数株主損失2,988百万円などがあり、当第3四半期の四半期純損失は9,187百万円（前年同期は四半期純利益917百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの概況・業績は以下のとおりであります。なお、当期より、繊維事業撤退により金額が僅少になったことから「その他事業」の区分を廃止しております。

（マーチャント・バンキング事業）

国内及び海外の企業投資及び不動産投資に関する投資回収を積極的に進めたことから、売上高3,924百万円となりました。

しかしながら、営業投資先の経営破綻による連結子会社の損失約31億円に加えて、投資回収に伴う売却損及び市場環境の悪化を踏まえた営業投資資産の評価損などにより、営業損失8,437百万円となりました。

（ホスピタリティ&ウェルネス事業）

指定管理事業の開始に伴う増収により、売上高は2,961百万円となりました。

一方で、ガソリン高や景況悪化を受けたレジャー需要の落ち込み、競合店の出店の影響に加えて、指定管理事業の開始に伴う一時的な支出があったことなどから、営業損失74百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（総資産）

当第3四半期末の総資産は、投資回収及び評価減により、前期末と比較して17,755百万円減の11,320百万円となりました。総資産の主な変動要因は、以下の通りであります。

国内外の営業投資資産の回収及び評価減等により営業投資有価証券が9,673百万円減少

販売用不動産の売却及び評価減等によりたな卸資産が1,188百万円減少

メザニン投資の回収及び売却により営業貸付金が3,171百万円減少

繰延税金資産を全額取崩したことにより2,160百万円減少

有形固定資産について、売却及び減損損失等の一方で、営業用資産取得があり、444百万円の純増

（負債）

当第3四半期末の負債合計は、前期末と比較して4,605百万円減の9,760百万円となりました。主な変動要因は、以下の通りであります。

有利子負債圧縮による短期借入金の減少4,856百万円

長期借入金（1年内返済長期借入金を含む）について、約定弁済及び投資回収に伴う返済の一方で営業用資産購入に伴う新規調達があり、781百万円の純増

転換社債型新株予約権の消却による減少550百万円

(純資産)

当第3四半期末の純資産合計は前期末と比較して13,149百万円減の1,559百万円となりました。主な変動要因は、以下の通りであります。

当第3四半期の四半期純損失9,187百万円

円高及び上場株式の株価下落に伴い評価差額金が238百万円減少

連結子会社保有の営業投資資産の評価減及び連結子会社の解散等に伴い少数株主持分が3,535百万円減少

なお、当第3四半期末の自己資本は1,298百万円、自己資本比率は11.5%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年11月11日付当社「平成21年3月期 第2四半期決算短信」にて公表の通期連結業績予想との差異は以下のとおりであります。

当第3四半期までに積極的な投資回収により売上高が当初計画を上回る水準で推移したことから、通期の予想売上高を9,000百万円(前回予想は8,600百万円)に修正いたします。

また、損益の予想につきましては、前述の当第3四半期連結会計期間までの業績に、第4四半期において見込まれる売却益を織り込んだ結果、営業損失9,200百万円(前回予想は営業損失8,300百万円)、経常損失9,400百万円(前回予想は経常損失8,500百万円)に修正しております。

これに加えまして、第4四半期において特別利益として転換社債型新株予約権付社債の社債償還益約13億円を見込んだことなどから、当期純損失7,700百万円(前回予想は当期純損失7,100百万円)に修正しております。

なお、上記の通期予想当期純損失は、当第3四半期の四半期純損失9,107百万円から大幅に改善するものであり、平成21年1月15日付で第三者割当増資約10億円の払込が完了していることと併せまして、当期末の連結純資産は、当第3四半期末の四半期当期末の連結純資産1,639百万円から大幅に改善し40億円程度となる見込みであります。

	売上高	営業損失()	経常損失()	当期純利益又は純損失()	1株当たり当期純利益又は純損失()	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想(A)	8,600	8,300	8,500	7,100	87	65
今回修正予想(B)	9,000	9,200	9,400	7,700	65	33
増減額(B-A)	400	900	900	600	-	-
増減率(%)	4.7	-	-	-	-	-
前期実績	5,054	1,128	1,515	44	0	55

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

第1四半期連結会計期間より、特定子会社であったイーアイ・バリュー・パートナーズ投資事業有限責任組合は、解散により連結財務諸表に重要な影響を及ぼさなくなったため、連結の範囲から除外しております。

第2四半期連結会計期間より、特定子会社であった株式会社イー・エル・ティー・ホールディングスは、減資等により重要性が低下したため、連結の範囲から除外しております。なお、同社は減資により特定子会社でなくなっております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	649,164	1,758,812
受取手形及び売掛金	147,064	160,123
営業投資有価証券	3,970,371	13,643,865
営業貸付金	334,054	3,506,030
たな卸資産	759,908	1,947,952
未収入金	313,991	28,465
繰延税金資産	-	2,160,693
その他	218,016	1,193,340
貸倒引当金	245,119	-
流動資産合計	6,147,451	24,399,283
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	637,245	1,334,024
信託建物	1,790,460	-
機械装置及び運搬具(純額)	34,839	83,726
土地	833,408	1,868,193
信託土地	773,000	-
その他(純額)	202,121	288,931
減損損失累計額	251,278	-
有形固定資産合計	4,019,797	3,574,876
無形固定資産		
その他	9,437	11,790
無形固定資産合計	9,437	11,790
投資その他の資産		
投資有価証券	778,101	721,672
その他	365,486	367,822
投資その他の資産合計	1,143,588	1,089,494
固定資産合計	5,172,823	4,676,161
資産合計	11,320,275	29,075,445

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	181,480	113,983
短期借入金	1,050,000	5,906,000
1年内返済予定の長期借入金	1,012,800	668,300
未払法人税等	12,700	192,938
賞与引当金	5,441	17,972
関係会社整理損失引当金	-	44,644
繰延税金負債	135,771	-
その他	756,725	397,203
流動負債合計	3,154,919	7,341,041
固定負債		
社債	600,000	600,000
新株予約権付社債	3,475,000	4,025,000
長期借入金	2,204,000	1,766,625
繰延税金負債	191,498	517,496
負ののれん	-	958
その他	135,255	114,751
固定負債合計	6,605,754	7,024,831
負債合計	9,760,674	14,365,873
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,719,288	3,719,288
資本剰余金	2,916,086	2,916,208
利益剰余金	4,381,992	4,949,690
自己株式	23,014	22,845
株主資本合計	2,230,368	11,562,341
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	930,470	661,845
繰延ヘッジ損益	-	20,031
為替換算調整勘定	1,702	11,383
評価・換算差額等合計	932,172	693,260
新株予約権	46,132	89,353
少数株主持分	215,272	3,751,137
純資産合計	1,559,601	14,709,572
負債純資産合計	11,320,275	29,075,445

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	6,667,114
売上原価	13,368,933
売上総損失()	6,701,818
販売費及び一般管理費	2,698,048
営業損失()	9,399,866
営業外収益	
受取利息	5,311
受取配当金	14,842
持分法による投資利益	35,158
雑収入	20,723
その他	5,702
営業外収益合計	81,739
営業外費用	
支払利息	148,147
社債利息	10,937
支払手数料	61,325
為替差損	20,582
その他	41,684
営業外費用合計	282,678
経常損失()	9,600,805
特別利益	
社債償還益	119,250
新株予約権戻入益	50,810
固定資産売却益	40,704
債務免除益	512,513
特別利益合計	723,279
特別損失	
固定資産売却損	738,576
固定資産除却損	3,509
関係会社株式売却損	23,655
子会社清算損	11,737
減損損失	1,035,008
特別損失合計	1,812,487
税金等調整前四半期純損失()	10,690,013
法人税、住民税及び事業税	12,165
法人税等調整額	1,474,066
法人税等合計	1,486,231
少数株主損失()	2,988,942
四半期純損失()	9,187,303

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、サブプライムローン問題に端を発する国際的金融市場の収縮、不動産市況の低迷という経営環境の悪化を受け、投資有価証券、営業貸付金及び販売用不動産に関する売却損及び評価損等により当第3四半期連結累計期間の営業損失が9,399百万円となり、当連結会計年度は前連結会計年度に引き続き2期連続の営業損失となる見込みとなりました。

一方で、約10億円の第三者割当増資の払込みが平成21年1月15日付で完了したこと、並びに懸案であった円貨建転換社債型新株予約権付社債の買入または償還が完了したことから、第2四半期連結会計期間において疑義とされた事項は、現在完全に解消されております。

しかしながら、今後とも当社を取り巻く環境に厳しさが予想される中、物件売却等による収益水準が見込みを大きく下回るなどの不確実性は残存するため、継続企業の前提に関する重要な疑義の表記を継続いたしました。

当社グループは、このような状況を解消すべく、日中間ビジネスを軸とした事業成長戦略を進めるほか、徹底した経費削減、投資回収の継続、不採算拠点からの撤退など経営合理化策に全力で取り組んでまいります。

かかる取り組みにより、営業利益の確保及び財務基盤の強化を図ることによって、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消できるものと判断しております。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を連結財務諸表には反映しておりません。

(4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

	マーチャント・ バンキング事業 (千円)	ホスピタリティ & ウェルネス事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,708,899	2,958,215	6,667,114	-	6,667,114
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	215,365	2,799	218,165	(218,165)	-
計	3,924,265	2,961,015	6,885,280	(218,165)	6,667,114
営業損失()	8,366,022	74,990	8,512,635	887,230	9,399,866

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、当社グループの企業理念及び事業内容を考慮して区分しております。

2. 事業区分の変更

第1四半期連結会計期間より、繊維事業の撤退に伴い金額が僅少になったことから「その他事業」の区分を廃止いたしました。

3. 各区分に属する主要な業務内容、サービスの内容

事業区分	主要製品
マーチャント・バンキング事業	投資業務（不動産、企業株式、企業向け貸付等）、投資ファンド運営業務、不動産賃貸業務、その他業務
ホスピタリティ&ウェルネス事業	ホテル及びボウリング場等のアミューズメント施設の経営、公営施設の運営受託

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメントの記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

	アジア	計
海外売上高（千円）	1,330,817	1,330,817
連結売上高（千円）	-	6,667,114
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	19.9	19.9

（注）1．国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2．各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

アジア 中国、香港、台湾

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

（要約）四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 （平成20年3月期第3四半期）
	金額（千円）
売上高	3,963,218
売上原価	1,351,344
売上総利益	2,611,874
販売費及び一般管理費	2,598,880
営業利益	12,993
営業外収益	68,773
営業外費用	344,464
経常損失（ ）	262,698
特別利益	49,255
特別損失	13,123
税金等調整前四半期純損失（ ）	226,566
法人税、住民税及び事業税	41,172
法人税等調整額	994,329
少数株主損失（ ）	190,702
四半期純損失	917,292